

窓から

貴方はきっとひとりでも生きてゆけるでしょう
私などはただの話し相手なのね
貴方はとても強いわ、強すぎるのよ
私はそれが怖い、貴方の強さが
貴方はいつか去^いってしまうでしょう
その強さの故に、その感じやすさの故に

*

君は知らないんだ、下書きの僕を
君が見ているのは色彩だけさ
君は知らないんだ、僕がかつて受けた傷を
生活というものを踏みつけにした報いを
君は信じられないというのだね
お行き、君の信じる生活を抱いて

(1984.12.23)